

■ロシア：2030年までに国内で38基、国外で21基の原子炉建設を計画

国家コーポレーション・ロスアトムのスパスキー副総裁は2012年9月7日、「モスクワ不拡散協議会2012」において、2030年までにロシアは38基の原子炉を建設することになろう、と述べた。副総裁によると、現在ロシアでは10カ所の原子力発電所に33基の原子炉があり、その設備容量は2,420万kWになるが、近年運開した原子炉は2基に過ぎない。2030年までにさらに38基の原子炉の運開を計画しており、その結果、設備容量は5,100万kWに達する見込みである。また、副総裁は、国外での原子炉建設においてもその間に21基の建設が計画されていると付け加え、ロシアが国外での原子炉建設においても先進的役割を果たしていることを強調した。